

平成19年度 校内研修 指導主事招聘授業 H19 7/20(木)

指導主事 島尻教育事務所 幸地政行

授業研究会

1 授業者反省

- ・指導案の1ページ、継承者の方々が熱心に教えてくれることへの尊敬と感謝の念が希薄であるとのことで、このテーマで授業を行った。
- ・本当は対話形式の予定だったが、講演のような形式になってしまった。
- ・新垣一史さんの話を聞く前と聞いた後での生徒の変容を見たかったのですが、生徒が真剣に取り組んでいたのが良かったです。
- ・郷土への思いは触れることができたが、尊敬の念や感謝の気持ちについては十分にはできなかった。

2 授業分析・質疑応答

- ・体験だけを通してではなく、その後の道德の授業をして内容を深めていくべきだと考えていたので良かった。
- ・できたら、エイサーの取り組みの前に授業を打てたら良かった。
- ・他の中学校と比べて、行事に追われて生徒は忙しいが、行事に対しての想いの部分で、職員もじっくり考える時間がなかったが、今日はその時間がとれて良かった。
- ・対話形式は難しい授業展開の一つでは？真先生が加わるといいかもしれない。

3 指導主事の指導助言

- ・発達段階に応じたいい題材。
- ・実体験があったことを取り扱い、ゲストティーチャーを呼んだということが良かったし、しかも、実際に関わりがあった兄貴的な人で良かった。
- ・アンケートをとったことは良かった。
- ・教師がゲストティーチャーの後で、まとめの話をしたが、生徒への問いかけで内容を引き出してほしかった。
- ・風神太鼓とゲストティーチャーのものも見てみたい。
- ・関係図の一本線の意味を考えてほしい。

4 成果と課題

(1) 生徒の変容

- ・これまでの行事をこなすことだけに追われて振り返りが少なく、また継承者の方々が熱心に教えてくれることに対する尊敬と感謝の念が希薄になる部分があった。しかし、授業を通して継承者の思いを理解し、これまでの受け継がれてきた島の伝統文化を大切に受け継いでいきたいという気持ちを抱かせることができた。

(2) 成果

- ・ゲストティーチャーと生徒の二者による対話方式は難しいと考えられる。継承者への尊敬の念を、どのような態度で、行動で表すことができるのかを生徒自身が考え、提案できるようにしなければならない。

(3) 対応策

- ・教師がゲストティーチャーと生徒の間に入り、進行を務めたシンポジウムの方法で話し合いを進めることができるのではないかな。
- ・発問の工夫で生徒自身が考え方を広め、よりよい行動が取れるように促すことができるのではないかな。